

第6期雄武町総合計画後期基本計画 策定審議会第2回社会福祉・教育部会 議事録

【日 時】 令和4年10月14日（金） 18:30～20:57

【場 所】 雄武町役場別館 中会議室

【出席者】 竹田 浩二 部会長 大崎 禎浩 部会員 中島 徹 部会員
関岡 修 部会員 橋本 幸子 部会員 松永 裕香 部会員
（欠席者）大星 幸恵 部会長代理 中島 亜紀 部会員 佐々木光明 部会員
四辻 裕二 部会員 山田 香里 部会員 渡邊 恵 部会員
（町）事務局～横田財務企画課長 渡部財務企画課長補佐
樫山企画調整係長 本村企画調整係 豊田企画調整係

【会議次第】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議事
(1) 第6期雄武町総合計画前期基本計画推進状況報告書について
- 4 その他
- 5 閉会

【配付資料】 ・基本施策別担当専門部会一覧

【議事録】

- 1 開会（開会時刻：午後6時30分）～ 財務企画課長

2 部会長あいさつ

「皆様におかれましては、お足元の悪い中、御参加いただきありがとうございます。前回4つの基本施策を2時間半かけてご審議いただきましたが、前回に引き続きまして、前期の基本計画の推進状況について、意見交換を行うこととしております。連日で大変お疲れとは存じますが、皆様の忌憚のないご意見をいただきながら、会議を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。」

(以後、竹田部会長が司会を進行)

3 議事 ～ 配付資料に基づき、企画調整係長から説明

(1) 第6期雄武町総合計画前期基本計画推進状況報告書について

説明冒頭、前回の専門部会において質問があった下記事項について、企画調整係長が回答。

【地域包括ケアシステム】

雄武町内で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、地域の実情に合った住まい・医療・介護・予防・生活支援、これらが一体的に提供されるシステムのことである。住まいについては自宅のほか一般的なサービス付き高齢者住宅、医療についてはかかりつけ医師や地域の連携病院、介護については在宅・訪問介護、施設についてはデイサービスセンター、特別養護老人ホームなどとなる。予防・生活支援については老人クラブ、自治会、ボランティア、社会福祉協議会などが主体になってヘルパーなどによる生活支援、弁当などの配食、見回り活動となる。これらの活動が連携することによって、本格的な介護が必要になった後も、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを人生の最後まで継続することができるということになる。このシステムの窓口については福祉給付課になるが、関係課等と一緒に進めている。

【雄武町データヘルス計画】

雄武町の国民健康保険加入者の診療データを分析し、効果的・効率的な保険事業を行うための計画である。この計画については国から計画を策定するよう指示されている。

回答終了後、前回の専門部会と同様、「第6期雄武町総合計画前期基本計画推進状況報告書」について、基本施策ごとに事務局において読み上げ。

【基本施策6 保健・医療の充実（19頁～24頁）】

●単位施策1 疾病の予防と健康の増進

- (部 会 員) 前回部会でも少し触れたが、マイナンバーカードを保険証と紐付けすることについて、色々な意見、メリットやデメリットをマスメディア等が報じているが、コロナ禍を経験して、いかにマイナンバーカードが必要かわかった。健康保険証との紐付けは個人的には必要であるという認識をしている。
- (部 会 員) 私もマイナンバーカードを作って保険証と紐づけしているが、マイナンバーについてはデータが流出する可能性がゼロではなく、流出した時が怖い。データは使用者によって良い使い方悪い使い方できてしまう。マイナンバー制度の推進は役場や国の信頼があつてこそであると思う。信頼性を保つことができればこの制度はとても良い仕組みだと思うので、事業の一本化によって無駄な税金を使わないで済むかと思う。
- (部 会 員) 私もマイナンバーカードは作ったが、一回も使用したことはない。カードを利用して素早く書類などを発行してもらうことができれば良いなとは思いますが、これまで中々その段階まで達していない状況であったため、保険証と紐付けすることにより、カードを所有する意味が出てくるかと思う。別の話題になるが、特定健診の受診率がかなり低い原因について教えてほしい。
- (事 務 局) 雄武町の特定健診受診率は昔から低い。令和3年度の実績が平成28年度実績よりも低いことについては、コロナ禍によって外出機会が少なくなったことも一因であると思料される。目標値である40%というのも低いのだが、そこにも達していないのが現状である。通院している町民は、「毎月又は定期的に健診を受けるため特定健診を受けなくても良い」と思っている人もいるかもしれない。
- (部 会 員) 農家は国民健康保険に加入しているが、農協の基幹病院として遠軽厚生病院が指定されているため、例えば婦人部で集まり、バスで人間ドックを受診しに行っている。
- (部 会 員) そういった方はこの数字（特定健診受診率）に入っていないということか。
- (事 務 局) そうである。国民健康保険に加入している町民が、町が実施する特定健診を受診した場合の受診率となっている。
- (部 会 員) 受診率は国民健康保険加入者を100とした時の何%ということなのか。
- (事 務 局) そうである。国民健康保険に加入している町民が全員受診した場合は100%になる。そのため、共済組合や社会保険に加入している町民が受診した数字は入っていない。
- (部 会 員) 季節労働者は12月に社会保険が切れて1月から3月は国民健康保険となる。

毎度手続きが必要となり煩雑である。マイナンバーカードになるとそれらの手続はどうなるのか。

(事務局) 将来的に一本化されるため、手続はこれまでよりも簡略化される。

(部会員) 失業保険の手続の際にもマイナンバーカードを使用するため、もし簡略化されるのであれば、良いことだと思う。

(部会員) マイナンバーは、アメリカでいう個人番号制度であり、国民一人一人に番号をつけた。今度はそれに対するインフラ整備が必要となる。何をやるかというのは段階的にやっていくため、先ほど橋本委員が言われたように、これまでは使い道がほとんど無い状態であったが、今は、少しずつインフラを増やしていきマイナンバーカードの価値を広げている段階にある。

(部会員) 特定健診の受診率を上げるためには、一次産業に従事する人たちの団体に積極的に周知を行う必要があると思う。おそらく漁師、親方ではなく国民健康保険に加入している乗組員はたぶん健診に来ていないと思う。これは徹底して組織を挙げて取り組む必要がある。行政から、受診対象者がいる各産業団体にアピールして、「極力受けてください」「絶対受けてください」という姿勢をとらないと、「今日忙しいから」「二日酔いだから行かない」という人も出てくると思う。「間違いなく受けてください」と役場から言ってあげると、もう少し受診率は上がると思う。

(部会員) 町民として毎年人間ドックや特定健診を受けて、マイナンバーカードを活用して町として健康情報をデータ化できれば、生活習慣病を予防する取組ができ、医療費を抑えて町の財政を健全化できるのではないかなと思う。

(部会員) 国民健康保険だけに限らず、そういった取組を実施することで、「マイナンバーカードと健康保険証を紐付けしたほうが良いよね」と思うようになり、カードを作る意味ができるのではないかな。

(部会員) データが蓄積され、健康保険証と紐づけられることにより、健康管理・栄養管理指導といったようなアプローチができる。医療費や投薬・処方箋情報も紐付けられ、確認することができる。雄武町のマイナンバー普及率は管内でも高いため、ぜひ町としても「雄武町はマイナンバーカードを有効的に使っている」と周りから言われるようにしていけたら良いと思う。

●単位施策2 親と子の健やかな成長の支援

(部会員) 基本施策指標の中で「育児不安を感じる親の割合」が平成28年度実績よりも多くなっており、悪化している。私の想像としては、コロナ禍で妊娠して病院

に受診するということがこわいと思っているのではないかと。事務局としてはどう推測しているか。

(事務局) 核家族化、共働きなどにより家族の負担は多くなっている。町では母子包括支援センター、通称「ぶちさぼ」を開設し、妊娠・出産・子育ての総合窓口として相談に応じている。母親だけでなく、父親同士も一緒に来庁し、共通の悩みを話し合うような取組も行っており、以前と比較すると少しは不安が和らいだと思料する。若草保育所に併設している子育て支援センターと併せて、子育ての政策を充実させている最中である。

(部会員) 現代の子育て世代が困っていることについて、私たちの世代はあまりわからないが、例えば、「母子手帳をもらいに来ました」と言った時に支援の対象者がわかるため、その際に一声かけるだとか、年1回か2回でも自宅への訪問ケアといったものができれば、もう少し良いのではないかなと思う。

●単位施策3 「産みたい」希望の実現

(部会員) 妊活については非常にプライベートな部分が大きいため、周知のタイミングが大事かなと思う。婚姻届を出した時に情報提供するというのが良いのではないかと。

(部会員) 大分オープンになってきているが、不妊治療に関しては、まだまだ「なんで治療するの」という声をかけてくる人がいるのも事実であるため、部会員が言われたように婚姻届の提出時に情報提供する方法しかないのではと思う。後は、匿名で電話相談を受けて、後日面会する形をとったりできると、相談しやすくなるのではないかなと思う。

●単位施策4 メンタルヘルス対策の推進

(部会員) メンタルヘルスについては、プライベート性が非常に高いものであるため、匿名で相談できるような体制づくりが必要かなと思う。

●単位施策5 地域医療の確立

(部会員) 地域医療は「町民の一丁目一番地」だと思う。行政はなんとか一次医療の確保の体制づくりをして頂きたい。一次医療としての雄武町単独での国保病院というのは、将来10年、20年、30年担保できるのかというのは、特別会計で何億という支出をしているだけに、近隣の興部町なり枝幸町なり、振興局の枠組みを越えてでも、持続可能な体制をつくったほうが良いのではないかなと思う。

(部会員) 今の段階では国保病院の信頼度は低いと思う。町民からすると「もう少し信頼度を上げてほしい」と思っている。国保病院で健診を受けたことがあるが、良い医療機器が沢山あり、全然患者が来ていないのがもったいないと思う。国保

病院の健診を町外・道外の方にも幅広く対象にして、温泉と紐づけて「1泊2日で健診を受けに来ませんか」というようなアピールをしても良いかと思う。せっかく良い機会があるのに、宝の持ち腐れのように思ってしまう。

(部 会 員) 良い機械はあるけど、操作できる人が少ない。

(部 会 員) 診療する内科医が、適切な指導を行い、また、病院には管理栄養士がいるので、栄養指導もできるので、温泉と紐付けするのも悪くはないと思う。

(部 会 員) 医師の確保について、一次医療の中の広域医療というような、これからも病院を継続できるような体制づくりが必要だと思う。来年は違う医者があるとか、医者が変わるというのが一番困る。時間が限られているので次に進むが、このことについては町民が一番求めていることだと思う。

【基本施策8 子育て・子育ての充実（28頁～31頁）】

(部 会 員) 保育士が不足している。一昨年あたりから募集をしており、今年1人入ったが1人じゃ全然足りない状況である。子どもの人数は減ってきているが、発達障がいの子が増えており、対応する先生の人数が不足している。紙で周知するだけでは人は集まらない。やはり、短大等に出向いて求人しないと無理だと思うので、その辺りの努力を積極的に、「どうしても確保したい」という気持ちを強く持って保育士の採用に向けて取り組んでほしい。短大等に出向いた際は、雄武町の良さをアピールしてほしい。札幌市でも保育士不足であるため求人が多くあり、はじめから「田舎にきたい」という若者はほとんどいない。

(部 会 員) 賃金を高くしたら来るという問題でもない。雄武町には何も無いから。遊ぶ場所、食べる場所、リラックスできる場所、スポーツする場所、何も無い。「魅力がない」と多分みんな思っている。「美味しいものがいっぱいあって、自然豊かな町」というのは住んでいる町民がそう思うだけである。休日にどこかに行くとなった時、皆、町内で買い物をするのか。コーヒー飲みに行こうとして喫茶店が満席だったらどこに行くのか。何も無い状態で若い子に「来てください」と言って、果たして来るのだろうか。私だったら、先ほど部会員が言われたように、直接学校を訪問して、学生に説明する際には、「こういうこともありますよ」「ああいうこともありますよ」と支援についてもしっかり伝える。住宅確保や家賃補助など魅力あるまちづくりをしないといけないと思う。保育士に限らず、全てにおいてそうでないと人は来ない。

- (部 会 員) 北海道に憧れる若者に向けて、道外へ出向いて PR するのはどうか。
- (部 会 員) 道外のほうが良いと思う。東京、首都圏の短大等のほうが、人が来る可能性はあると思う。
- (部 会 員) 昔、テレビで見た話であるが、引っ越すにもお金がかかるため、住居・職場が確保されていて、家賃が補助されるだとか、正しくはないけれども無料だとか、そうであれば自分の持っている資格で移住したいという人を見た。そういったことを PR すると、それを見てくれた人が来てくれる可能性はあると思う。また、自身の話だが、教員になる際に奨学金を利用した。教員を何年間か勤めたら返さなくても良いというものであった。保育士についても、そういった奨学金制度、全額免除でなくても、例えば 7 割返還免除のような仕組みがあったら良いと思う。また、可能であれば、対象者が中学生・高校生であるうちに制度を周知したら良いと思う。保育士になりたいという生徒がいれば、奨学金を借りて町外の短大等で勉強して、雄武町に帰ってきて親の近くで暮らすなどできる。金銭的なものはだいぶ違うため、親御さんも助けられるし、なりたかった保育士になれるため、良い制度になると思う。制度ができた際は、短大等へ出向く前に、まずは中学生・高校生に紹介してみても良いかと思う。
- (部 会 員) 雄武高校の奨学金にはそういったものを期待していた。大学等に行きたい人のための制度であるため、ゆくゆくは雄武町に帰ってきてもらうための制度かと思っていたが、話を聞いたら、帰ってこなくても出せばなしだという。部会員が言われたことは最高の制度だと思う。
- (部 会 員) 今の制度だと親への支援になってしまっていると思う。子どもが修学するためにお金を蓄えてこなかったのかと思ってしまう。部会員の言われるような、看護師や保育士、行政職員も含め、給付金ではなく奨学金という形の制度があっても良いと思う。
- (部 会 員) 部会員が言われたということは、保育士になりたい子どもがすでにいるということだと思うので、そういった支援があると、雄武町にとっては大きなプラスになると思う。今の高校の奨学金制度だと出しっ放しになってしまっているため、雄武町に帰ってきてもらえるような方法にするのが一番良いと思う。
- (部 会 員) 私の子どもも高校生なのだが、雄武町から出て行ったら出て行きっぱなしになる。現状、雄武町に帰ってきてやりたい仕事が無いということもあるが、そういった就職と紐づけることができるような制度があれば良いと思う。
- (部 会 員) 例えば役場職員になるための専門学校があるのだから、そこに行って雄武町に

帰ってくるのであれば、それこそ良いことだと思う。「まちづくりは人づくり」と考え、平成元年度にサンライズ王国を立ち上げた。「雄武町に帰ってきて仕事したい」と子どもたち思えるようなまちづくりが大事だと思う。奨学金制度も1つの手かと思う。

(事務局) 奨学金制度の関係であるが、雄武町では医者・医療技術者（薬剤師・リハビリテーション技師等）については奨学金制度があり、在学中は月額8万円、年間96万円、4年間で384万円の支給となる。例えば、看護師の場合、4年間奨学金を受給し、雄武町に戻ってきて4年間国保病院の職員として働いてもらったら、全額返還免除となる。現在役場に勤めている保健師は、学校への訪問時等に制度を説明し、大学4年次の1年間に活用いただいて入庁していることもあり、とても効果のある制度である。保育士対象の制度はまだできていない。人材確保が困難になっている土木技師・建築技師については制度（雄武町建設技術職員養成奨学金）を創設した。土木・建築技師については、（医師・医療技術者の奨学金と同様、奨学金の貸付を受けた期間と同じ期間役場職員として勤務した場合、全額返還免除となるが、）もし仮に雄武町の民間業者に勤めることとなった場合でも、民間の採用状況も厳しい情勢であることから、奨学金の貸付金の半額は返還免除となる。しかしながら、制度の活用実績はない。保育士は現状4人ほど足りず物凄く大変な状態ではあるが、これまで短大へ出向いたりすることをしてこなかったのが実態である。先ほど橋本委員や関岡委員が言われたように、学校へ出向くのであれば、北海道より東京・首都圏、都会から北海道に来てもらうような方が良いと考えている。現在、紋別市を除く西紋別4町村（雄武町、興部町、滝上町、西興部村）の町村会において、どの町村も保育士、看護師、土木・建築・保健師の技術職が確保できない状況であることから、広域連携事業として北海道の交付金を活用して専用の募集ウェブページを作成し、東京都内において説明会を開催するような人材確保事業を実施する予定である。効果があるかどうかまだ分からないが、動き出しているところではある。保育士に関しては、昔では考えられなかったが、人材派遣会社の活用（採用時成功報酬型）も検討されている。国保病院では、すでに「応援ナース」という形で専門業者から派遣してもらっている。地方の市町村はどこも人材が確保できない状態であり、人の取り合いになっている。先ほど関岡委員が言われたように、「魅力あるまちづくり」が先なのかもしれない。

(部会員) 国立大学を卒業した医者・看護師については、国の税金を使ってその職業にな

ったのだから、輪番制でも良いので都市部から来てもらうような制度を国として政策で実行することを真剣に考えてもらう必要があるのではないかな。

●基本施策3 経済的負担の軽減

(部 会 員) 核家族が増えたことにより家族の負担が増え、相談する相手も近くにいないということもあり難しいことである。この間、テレビを見ていたら、東川町において、子育てについて支援が必要な家庭で、一般の子育てサービスを利用することが難しい養育者に対して、保健師や子育てヘルパーが家に訪問して、子育ての助言をもらうサービスがあるという。他自治体においてそういった事例があるので、役場職員、議員による視察など、先進的な子育て支援政策をはじめ、まちづくりについて考えてほしい。

(部 会 員) 児童センターが学校から遠いと思う。子どもたちからもよく聞く。児童センターに到着したらすぐ帰る時間になり、全然遊べる時間がないと聞く。子どもたちに大声を出されたら困るかもしれないが、今の図書館に児童センターのような役割を持たせるといった利用方法があっても良いのではないかな。

(部 会 員) (社会教育委員の立場としては) 図書館も本当は坂の上に建てたかった。国道を渡るようなことはせずに学校の近くに建設してほしいと伝えたが、今の場所から変えなかった。もう建ててしまったため、それに反対する気はないが、施設の建造で1+1は2という時代ではない。1+1が3以上になるような複合的施設を考えなければならない。例えば、西興部村はホテルと公民館が一体化しており、施設と同じ並びには美術館、スポーツ施設などがあり、「ここに行ったら大体の物事はできる」ようになっている。雄武町の教育施設は色々なエリアに点在しているため、下校後の動線が変わってしまって中々難しい。施設を循環するバスの検討もしていかなければならないのではないかな。

(部 会 員) 経済的支援については、我々が子育てをしていた時代から考えると、正直な話羨ましい。財源が無くなったら支援制度も無くなるということを防ぐために、家庭の所得に応じた制度にしていけないといけないのではないかな。全ての家庭に全額支援するというのもどうなのかなと思います。

(部 会 員) やはり親御さんのことを考えた時に、幼稚園・保育所・小学校についてはお迎えの関係もあると思うので、なるべく近い場所にあると良いと思う。学童保育も、小学校が終わった後にすぐ行けるように距離感の近い配慮があったほうが、親にとっても子どもにとっても、とてもありがたい必要なのところだと思うため、教育施設を建設する際は、坂の上のエリアを「子育て支援地域」のような名前

で、将来的なものを見据えた、今一気に全て建造することは出来なくても、将来、何年後かには「こういった形にはしたい」というようなものは必要かと思う。図書館については、入所児が利用できるよう保育所と渡り廊下で繋がっていれば良いと思った。館内がうるさくなるかもしれないが、幼少時に図書館の環境に触れる機会がないと、子どもはなかなか本を読まないと思う。(渡り廊下を作るのは難しいと思うので、)ただ本の表紙を見るだとか、ただページをめくってみるだけでも良いので、親御さんを待ってる間「図書館で待ってるよ」というふうにしたら、お迎えまでの間、本に囲まれた環境に触れることができ、将来に大きく影響するのではないかと思う。今後、何か施設を建てるときには周りの配慮は必要なのかなと思う。

(部 会 員) 昔、現在の野球場(農村広場)の場所にスポーツセンター・武道センターなどのスポーツ関連施設と、小学校・中学校・高校を一か所に集めるという構想があったが、何も実現されていない。教育地域や医療地域などそういった構想があったのだが、何も無くなっている。言っては悪いが、これは行政が悪い。これは何々課、これは何々課。いつものこと。この施設は何々課のだから手を出せない。そういうふうに考えて、そこで話が終わってしまう。

(部 会 員) 現在の図書館を建てるにあたって「図書館を考える会」を組織したらしいが、どこに建てるかを考えず、社会教育委員の会議において出た一部の意見が取り入れられてしまった。学校と図書館が国道を挟むかたちになることは避けたく、立地条件を一番強く言ったのだが、先へ先へと進めてしまった。

(部 会 員) 子育て支援について、乳児の時は個別のサポートのほうが良いかと思う。総合窓口があるのは良いことだが、一番大切なのは、お母さんのところへ実働としてどれだけ行けるかどうかというのが一番ありがたいことだと思う。乳児と幼児で違うサポートの仕方があっても良いかと思う。サポートについても、勿論無料というのもありがたいが、何でも無料にするよりも、一定のお金を払ってでも確実にサポートしてもらえらるというような安心感があれば、有料でも良いと思う。無料でなくても確実性だとか安心感が与えられるような地域・仕組みがあれば、子育ても安心して出来るのではないかと、皆さんの話を聞いていて思った。

(部 会 員) 先程の東川町の事例は1回500円であったと記憶している。

【基本施策 12 生涯学習・生涯スポーツの推進(44頁～47頁)】

●単位施策 1 生涯学習活動の推進

(部 会 員) (社会教育委員の立場として) 地域課題に対応した学習機会を作りたいが、いかんせん指導者が少ない状況である。今後、年配の方や、町外から転勤・移住して来られた方で特技を持つ方を可能な限りデータバンク化したい。アプローチ方法を模索中だが、町民向けのアンケートを行う際に「何か得意なことはあるか」と付記するような形で実施できたらと思う。データバンクは生涯学習に限らず、福祉分野などでの特技を有する方もバンク化したいと思っている。コロナ禍により実施できていなかった町民大学や生きがい大学も今年度は実施しており、少しでも皆さんに学びの場を提供したい。

(部 会 員) 町の実施事業として武雄市児童交流事業が掲げられているが、益子町との取組は別なのか。何故同じ友好自治体なのに分けているのか。

(部 会 員) 約 25 年間の交流のうち、はじめの 5 年間、片山町長の時代は同じ姉妹都市として扱っていたのだが、その後色々あり、民間団体であるオムイフォーラム 21 が背負うこととなった。町の政策としては、あくまでも民間団体と益子町との繋がりということであった。今の町長は、益子町に急に舵を切り、その辺りはまだ交通整理ができていない。

(部 会 員) 益子町の子ども達との交流も精力的に実施しているように見えたので、何故かと思い質問した。

(事 務 局) 武雄市については行政間の交流をしている。益子町はオムイフォーラム 21 と NPO 法人おうむ夢プロジェクトが民間レベルでの交流を実施しているため、町の政策事業としては有していない。

(部 会 員) ただ、益子町との交流についても、バスの手配など教育委員会事務局の力添えをいただいている。ただ、武雄市との交流において長年抱えている課題があり、「実際には武雄市に行きたいが、(雄武町に武雄市児童が来た際のホームステイの) 受入ができない」という親御さんからの意見がある。

(部 会 員) 人口規模が違うのだから仕方ないのではないかな。

(部 会 員) 1 家庭に 2 人を受け入れるケースもある。施設の活用も考えるが、事業の目的とずれてしまうため、その辺りも整理していかなければならない。

●単位施策 2 生涯スポーツ活動の推進

(部 会 員) (社会教育委員の立場として) 今スポーツセンターのほか武道館等々含めて、長寿命化改修の実施を検討している。

(部 会 員) スポーツセンターは長寿命化してもダメである。体育館の床がダメだから。バ

スケートボールのリングを下ろした状態を見たことがあるか。寸法が全然違う。コートの中に収めるために作っただけで、バスケットボールの公式試合ができない。雄武高校にお願いして体育館を借用して試合を実施したこともある。どういうふうを考えて建設したか分からないが、リングがあるのに試合で使えないのであれば意味がない。だから、全面改修、建て直ししかない。コンクリートにクッションラバー板を貼っただけの体育館、今の時代はもうほとんどない。利用者がケガをしてしまう。

(部 会 員) 図書館を数億円をかけて作ったため、スポーツセンターを建てるというのなかなか難しく、現実小学校・中学校の老朽化問題もあり、それが落ち着いてからなのか、順番は行政、町長の方で判断すると思うが、ケガの件もあり何とかしたいのはよくわかる。

(部 会 員) 自分が体育指導委員をやっていた時から、何十年も前からずっとこの話はしている。図書館よりも先に建てると言っていたのが、いつのまにかその話が無くなっていた。小学校・中学校の問題も分かる。しかし、この前誰かが言っていたのだが、子どもがバスケットボールをやっていたのにやる場所がなくて困っているという。バスケットをやる場所がないのにバスケットやろうと言っても誰もできない。トップアスリートがどうか書いてあったが、合宿をやる体育館もないのに何をやるのか。町民大学とかと講演会やるとしても、そのあと何もならない。「生涯スポーツ」と書いてあるのにスポーツセンターの建設がなぜ出てこないのかがわからない。

(部 会 員) 雄武町社会教育中期計画内ではスポーツセンターが先であったが、総合計画では図書館の建設が優先となったため、社会教育（委員）としてはどうしてそうなったのかわからない。また、今年度、スポーツセンターのトレーニングルームの機材を導入したことも、順番が違うと思う。

(部 会 員) 生涯スポーツの施設がないのに議論したって何もならないのではないかな。

(部 会 員) トレーナーがいなくても使用出来るような機材を入れたとのこと。今後のスポーツセンターの運用方法などを学ぶため、11月に社会教育委員、スポーツ推進委員、役場の福祉部門職員、また、オブザーバーとして一部町議と共に、訓子府町の新スポーツセンターへ視察に行く予定をしている。

(部 会 員) 視察に行っても、何の成果も得られないのではないかな。ずっと思っているのだが、なんでまた視察に行くのか。何回も見に行っているのではないかな。年々新しい施設は建てられるため、設備が年々良くなっていくのは当たり前。それなの

に、また見に行って、施設の建設や改修の計画を作るために話し合っても、何年先に完成するのか。和寒町（のような小規模自治体の体育館）でバレーボールの大会が開催できるのであれば、雄武町でも施設があればできるのではない。試合ができる施設がないから、何も開催できない。イベントを開催するにしても練習をするにしても、毎回「中学校の体育館貸して下さい」「小学校の体育館貸してください」というふうにはならないと思う。

（部 会 員） 部会員の言うとおり。今考えているのは、「スポーツセンターを考える会」を組織して、町民にオープンな形で、今後のスポーツセンターの在り方を明文化して、新たに建設するのか長寿命化改修を行っていくのかを考えたい。現実的には長寿命化改修が先になるかと思う。言わんとすることはわかるが。

（部 会 員） バasketコートで 1 面使うにしても、選手が横に飛び出すところが何も無い。ベンチも置けない。試合をするのに選手がロビーで待っていなければならない。そんなところでバスケなんかできない。他のスポーツのことは詳しくはわからないが、あのようなところでは試合や練習等はできない。例えば、バスケボール協会が雄武高校の選手たちを高体連で連れていったことがあるが、スポーツセンターでは、フルコートを使った（試合を想定した）練習ができないため、高校にお願いして体育館を使わせてもらった。練習できるスペースがないのに生涯スポーツを考えても意味がないのではない。バレーボールやハンドボール、サッカーをやっていた大人に教えてもらおうと言われても、教えるスペースがないのにどうやって教えれば良いのかといつも思ってしまう。

（部 会 員） 部会員が活動していた時代からみると、スポーツ人口は減った。

（部 会 員） スポーツをやれるところがないから減ったのではない。

（部 会 員） どのみち、町として人口が減っているのは事実。それに合わせたニーズ等を考慮しながら施設を考えなければならない。建てるありきではなく、基本は長寿命化を目指すこととなると思う。

（部 会 員） 私はスポーツセンターを利用する人たちにケガをさせたくないから言っている。ケガの危険性が分かっているから何故あの施設でスポーツを推進していかなければならないのか。長寿命化改修をするにしても床は全部貼り替えないといけない。

（部 会 員） 床を貼り替えないといけないものかということについても「スポーツセンターを考える会」でオープンに意見を求めたい。どこに視察に行ったというのも町民は知らないと思う。図書館の建設時（図書館を考える会）と同様に情報をオ

ーブン化して、「どう改修していくべきなのか」「どういう施設に変えたほうが良いのか」ということを皆さんから沢山意見を聞き入れたうえで、「じゃあ何年後に建てよう」ということを明文化していかないと、町長が交代したら先送りになってしまうというのも良くない。

(部 会 員) スポーツセンターもそうだが、プールも老朽化がひどい。20年以上前でも古いと思っていたのに、いまだに同じ建物のまま。プールはいち早く何とかしてほしいと思う。

(部 会 員) 更衣室のプライバシー性が保たれていないと思う。妻が子どもに付き添って行くが、対策が必要なレベルである。

(部 会 員) プールについても、現在は紋別市民プールへ各小学校2回程度行っている状況である。プールも含め、体育関連施設を町民としてどう考えていくか、体力増進のためにウォーキングスペースが欲しいだとか冬場の運動施設という意味も含めて、しつこいがオープンな場で公共施設について話し合っていきたい。図書館のほうも、利用しない方からしてみれば「あの施設に5億円とか6億円もかけたのか」と思われるかもしれないが、スポーツセンターについても同様に思われる可能性はある。

(部 会 員) 建てる、建てないの話ではなく、そもそも生涯スポーツの推進を掲げているのであれば、施設がないとどうにもならない。走る、飛ぶなどは出来ず、ペタンクのような投げる競技しかできない。ペタンクはお年寄りも障がいを持っている方もできるようなスポーツではあるが、では誰か教えてくれるのかという話になってくる。

(部 会 員) 町のほうで勝手に話が進んでいってしまう。ゲートボール場もそう。スポーツセンターの体育館の床を土間にしてゲートボール場にしたらと（社会教育委員の会議で）で提案したが、知らない間にどんどん話が進み、完成してしまった。

(部 会 員) 体育館も知らないうちに建ててしまって良いのではないか。

(部 会 員) 町民に「そんなところにお金を使うの」というように思われないようにしなければならない。

(部 会 員) 部活動について、雄武高校には野球部がない、サッカー部がない、バレーボール部がない。現状、団体競技がある部活は吹奏楽部と陸上部と卓球部しかない。中学校時代に取り組んでいたスポーツが雄武高校の部活になかったとする。皆部活があるところに行くと思う。サッカーやりたいから興部高校に行く、野球やりたいから紋別高校に行く、というのが多分大半になってくると思う。委員

の皆さんは雄武高校が無くなってほしくないでしょう。母校だから。私は母校ではないのだが、PTA 会長として関わった時は制服を新しくした。50 年前のデザインの制服をそのまま使っていたため、この制服を変えたいということで PTA 会長になった。制服を変えていくらか良くなったかと思ったら、今度はスポーツが無くなった。雄武高校の存続のためにもどうにかしなければならない。

(部 会 員) 雄武高校の存続は生徒数がないとどうしようもできないため、やはり子どもを連れてきて、「雄武で育てる」しかないかと思う。生徒数がギリギリでも保てる間にそういった手立てを取らなければ厳しいと思う。ただ、現状部活動の種類が少ない。生徒数が増えれば教員数も増えて、部活の数も増えるのだが、減っているからやりたくてもできない。また、団体競技ができず、個人競技や少ない人数での競技しかできない。中学校も同じく厳しい状況にある。

(部 会 員) 部活動の議論は既にコミュニティ・スクール（学校運営協議会）において行われている。部活の支援を学校の先生だけでなく、善意で指導してくださる指導者を何とかしてつくりたいが、それをこれから議論していく状況である。中学校の部活動全部ができる訳ではないが、地域部活動の協議会のような、小学校の支援や一般町民からの支援をいただき組織づくりをしていかなければならない。ソフト面の整備も含めて、なおかつ体育施設などのハード面もきちんと両輪があった状態で進めていかないといけない。なんとかして子どもたちにスポーツする場を作りたいと思っている。

(部 会 員) 子ども達だけでなく、30 代になってもスポーツをやりたい人、また始めたいと思っている人もいると思う。ただ、やる場所がない。小学校や中学校の体育館の開放は 21 時までとなっている。17 時台で終わる一般の社会人はまだしも、18 時に仕事が終わって「じゃあ 19 時から始まるからすぐ集合」ということになる、ストレッチや準備運動などに時間がとることができず、それこそケガのもとなると思う。

(部 会 員) 時代に合った運用方法を訓子府町では実施しているため、そういった部分も視察していきたい。訓子府町はトレーナーも置いている。ただ、雄武町でもできるのかというのはこれからの議論になるが、視察で運用を学んでいきたい。

(部 会 員) 部活の指導者についても、例えば野球の少年団が無くなったが、中学校から野球を始めようと思った子は興部町の球場で練習しに行ってしまう。雄武町に立派な球場があるのに。

(部 会 員) あの球場はほとんど使われていないが結構維持費がかかっている。

- (部 会 員) トップアスリートに触れ合える機会について、野球については可能性はゼロではない。例えばプロ野球球団の応援大使として選手が雄武町に来た時も球場を活用していた。先程からスポーツセンターの議論で箱（施設）にこだわっているのは、プロバスケットボールチームを雄武町に呼びたいからである。知り合いが球団職員の人と知り合いで、呼びたいけれども雄武では無理である。そうになると紋別市での実施になるが、紋別のためにわざわざ呼ぶ必要もないなと思うってしまう。プロチームの熱（人気）があるうちにそういう機会が出来ればと思っている。例えば、和寒町にバレーボールの合宿が来る、紋別市でボクシングの試合や陸上の合宿が来るのであれば雄武町でも同じようなことはできると思う。
- (部 会 員) 過去、高校野球の合宿を、温泉を絡めて実施したことはある。野球場からホテルまで走って帰って行ったというのを見たことはある。雄武町でもそういったことは可能だと思う。
- (部 会 員) 野球やソフトボールであればトップアスリートと触れ合う機会は持てると思う。いかにプロの選手がすごいかということの間近で見る・触れるということはすごく良いことだと思う。（野球少年団や部活動のサポートとしても）雄武町には野球経験者が沢山いるため、今の野球場を十分活用出来ると思う。
- (部 会 員) 私の子どもが少年団に所属していた頃は指導者が沢山いた。しかし、自分の子ども以外への指導となるとなかなか首を縦には振ってくれない。指導者に対しての様々な補償、例えばケガをしたときはどうするのか、報酬はどうするのかなども含めてコミュニティ・スクールで議論していかないといけない。
- (部 会 員) 少しずつニュースで取り上げられているが、スポーツ庁、国の政策として「部活動の地域移行」が令和 5 年度から段階を追って開始される。将来的には、学校での部活ではなく地域の部活となる流れになる。個人的にはかなり難しいことだと思っている。紋別市で地域部活動について話を聞く機会があった。「中学校の部活がそのまま地域スポーツに移ると指導ができない」というような発想になってしまうのだが、根底が違う。今中学校でやっている部活をそのまま地域で受けるのではなくて、小学校のクラブ活動のような、「楽しんでやりましょう」といった人たちの集まりになってしまうかと思う。もし、勝ち負けにこだわるのであれば、それぞれの競技団体で勝ち負け用のチームを作っていくなければならない。「地域部活動」が国の政策として実施されることとなるが、受入団体がない、どの団体に誰がいるのかデータベースもないため、また、受

けてくださる指導者もいない。承諾いただいてもその指導だけで生活できない。それだけの手当がない。皆さん働いているので、「指導してあげたいけど、昼間は厳しい」「冬だったら指導できる」など、通年で指導いただけることが難しい。様々な問題が出てくると思う。この話が来年度には本格的に議論を進めなければいけないため、生涯スポーツ、社会教育の分野でも進めることとなるかと思われるが、皆さんのご理解とご協力をお願いしたい。また、地域部活動の体制についても都会と田舎では方法が変わってくる。皆さんの知恵と町民の熱い思いで、子どもたちのためにも、「生涯スポーツだから自分たちも楽しめるように」ということでも、組織づくりや、教えながら楽しむというようなちょっと今までとは変わった見方になるが「スポーツを楽しもう」という発想でご協力を頂きたい。

- (部 会 員) 地方と都市部ではやり方がちょっと変わってきたりしてしまう。そこは町民の総意をもって「子どもたちの部活をどうにか守れないだろうか」ということを社会教育（委員の会議）とコミュニティ・スクールで皆さんにアンケートを取りながら組み立てしていかなければいけないと思っている。その際には、部会員にも熱い思いを語っていただきたい。

●単位施策3 図書サービスの充実

- (部 会 員) デジタル化になり、図書館に行かなくても例えば携帯やタブレットなどで書籍を見ることができるようになってきている。国立国会図書館などのデジタル化資料送信サービスなどの活用や、蔵書管理の面では、紙媒体も必要であり大切だと思うが、今後、国や北海道の方針によりデジタル図書が一気に増加したり、紙の蔵書をこれ以上増やさない方向になったりする可能性はあるかと思う。

- (部 会 員) (図書館協議会委員として) 図書館のサービスの周知、普及啓蒙をしていきたいと思う。

●単位施策4 芸術・文化の振興

- (部 会 員) 芸術文化講演事業、これも社会教育の事業として実施しているが、今年はカーリングチームの選手を招き、150名という人数ではあるが実施した。予算の関係上、もう1回開催できるため、講演者の来町に際する気象条件が難しいところではあるが実施したい。陶芸推進事業については小学校で年2回実施している。芸術文化振興事業は中学校・高校を対象に毎年開催している。

- (部 会 員) 文化連盟なのだが、今回文化祭の開催検討にあたって、実働3団体しか活動していない状況であったため、(個人的には) それでもやれば良いのではと思った

が、中止ということになってしまった。(各団体について) 趣味でやっているのかもしれないが、だんだん加入人数が減っているのは事実である。連盟として増やそうと努力はしているのだが、なかなか増えない。これからも対策を続けていく。話は変わるが、町民センターの建て替えは考えていないのか。近隣市町村で文化ホールがないのは雄武町だけだと記憶している。興部町は可動式のステージがあり、柔道大会、剣道大会、バレーボールなどのスポーツも実施できる。昔、雄武町に NHK のど自慢を呼ぼうと思って話をした際に、客席が 600 席無ければ開催できないと言われた。雄武町の町民センターはどんなに椅子を詰めたとしても 500 席しかないということで、雄武高校の体育館で実施するかという話まで出たくらいである。文化ホールがないというのはいただけないかと思う。改修してエアコンも付いたので以前より環境は良くなったところではあるが、例えば、文化講演会を町民センターで実施するにあたって、もう少し良い環境を整えても良いのではないか。著名人の声を聞くというのも 1 つの文化推進事業なので、それを継続させるためにも、もう少しちゃんとした場所で講演してもらいたいという思いがある。町民センターをよく利用させていただいている身としても、もう少し何とかならないのかと思う。結局、照明にしても立派なものがあつたとしても、ちゃんと扱える人がいないと駄目。宝の持ち腐れである。せっかく良い照明があるのだから、可動式の客席になったような文化ホールがあっても良いと思う。

(部 会 員) 社会教育委員という立場で回答すると、町民センターに関しては何とかしたいと思っているが、では一年に何回稼働するのかという話になる。卵が先か鶏が先かになるのだが、現実的には、ある程度長寿命化改修をしながら、町民センターの利用稼働率を上げていき、徐々に文化ホールのような器を 10 年、20 年後かに検討しなければならない。「必要なもの」なのか「欲しいもの」なのかという見極めをしながら考えていかないと、それこそ、プールなどもそうだが、どうしても「必要」より「欲しい」の方に分類されてしまうところではある。

(部 会 員) 老い先短い私にとっては「必要」と思っている。ステージ上に大型スクリーンがあるため、映画の上映などもできると思う。雄武町には映画館がないのだから、例えば年 2 回、夏休みと冬休みに実施するなど、稼働率を上げるための取組であれば、何でも考えられると思う。毎月実施すればそれだけ稼働率は上がる。

(部 会 員) 稼働率が上がったなら「それじゃあ音響や照明も新しくしましょうよ」というこ

とになるが、いかんせん大きな会場で使うとなると選挙くらいしかない。

(部 会 員) 照明も新しくなったし、エアコンも付いた。音響については、もうあれ以上はこの建物の構造上厳しい。もっと色々なイベントを実施するのであれば建て替えの話とかに変わるかもしれないということなのか。町民センターの利用料金が高くなったため、(所属する団体で) 毎週利用していたところを月何回かにした。稼働率のことを考えるのであれば、もう少し考慮してもらっても良いのではないか。

(部 会 員) 長寿命化改修をしながらあのハード(施設)をいきなり壊すことは難しいので、利用料金も含め、もう少し使いやすいような料金にして稼働率を上げるだとか、長寿命化改修の中で検討されているのが、調理室を改修して、料理教室を開催できるような使いやすい形にしようと考えている。

(部 会 員) 町民センターは町民が集まりやすい立地であるため、現在の施設をうまく利用するのであれば、利用できるような取組を考えなければいけないと思う。ただ、あの施設を「文化ホール」と言ってしまうと恥ずかしいと思っている。

(部 会 員) 公民館が壊された際、町民センターが公民館の役割を持つということにしたため、町民が無料で使えるようにする話であったのが、いつの間にかそうでなくなっている。町民のニーズを踏まえてまちづくりをしていかないといけないと思う。

(部 会 員) 雄武町の行政はいつも守りに入る。何事も中途半端。全てが中途半端。ホテルだってそうである。最初は温水プールを併設するという話だった。

(部 会 員) 確か総事業費 37 億円だったのだが、我々町民から見たらプールより町民の癒しとなる温泉だけでプールはいらないと言っていた。補助金が 3～4 億円活用できるということだったのだが、それでも町民はプールに反対だった。

(部 会 員) 若い町民はプール建設に賛成だった。絶対ホテルの横にプールがあったら最高だったという話を当時していたはずだ。それなのに話が頓挫した。

(部 会 員) その件が頓挫した結果、町長が代替わりして、結局、町単独のお金で建設することになり、結果的にプールを併設となった場合の建設費用と同じくらいの費用がかかってしまったと記憶している。他管内の自治体にも同じような温水プールがあるが、施設内での事故があった際に管理体制について「行政として何をしているのか」と言われてしまうため、運用面で難しいところでもある。スポーツセンター、それから町民センターも含めて、皆さんに意見を聞きながら、スポーツセンターに関しては皆さんにもお願いをして「スポーツセンター

を考える会」を立ち上げ、皆さんと議論してどうあるべきなのかを明文化して町に答申したいと思っている。プールについては、義務教育の担当となるため、教育委員会にも情報共有したい。プールも老朽化が著しいことはわかっている。小学校・中学校の建て替えの問題もあるため、優先順位など調整をしながらになるかと思う。

4 その他

○今後のスケジュールについて、後期基本計画の事務局案を10月中に完成させ、11月上旬に開催予定の審議会にて示す。また、11月中旬に再度専門部会を2回ほど開催し、後期基本計画案の審議を行うとともに、具体的に実施する事業について各担当所管課から説明を行う旨企画調整係長から補足。

5 閉会（閉会時刻：午後8時57分）